

日本情報考古学会会報

NEWSLETTER OF THE JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION No.36 August 2015

目次

日本情報考古学会第34回大会 in Osaka の記録	1
日本情報考古学会第34回大会プログラム（記録）	2
2014年度第2回理事会議事録	3
第35回大会の開催について	4
『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布	4
三辻利一理事の叙勲について	4
お願い	4

日本情報考古学会第34回大会 in Osaka の記録

2015年3月28・29日、日本情報考古学会第34回大会が大阪大学豊中キャンパスで開催されました。

佐藤宏介・大会実行委員長（＝大阪大学基礎工学研究科教授）の開会の挨拶に引き続き、一般講演が行われました。今回も2日間にわたって多様な分野・テーマの研究発表がありました。研究発表は24件、うち7件はポスターセッションで、前回大会と合わせると2014年度は48件の発表が行われたこととなります。

特別講演は、安室喜弘先生（関西大学環境都市工学部都市システム工学科准教授）に行っていただきました。「エジプト考古学における3次元測量計画とその利用について」と題する大変興味深い内容でした。



会場の様子。



佐藤宏介実行委員長の挨拶。第34回大会ポスター。



特別講演。安室喜弘先生。



ポスターセッションの様子。

及川昭文・副会長の閉会の挨拶では、本学会の今後の新たな取り組みなどについて報告されました。今後とも有意義な大会となるよう、皆さまご協力ください。

日本情報考古学会第34回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第34回大会は、以下のような日程・内容でした。記録としてプログラムを掲載します。

期日：2015年3月28日（土）・29日（日）

会場：大阪大学 豊中キャンパス（大阪府豊中市待兼山町） 基礎工学国際棟 セミナー室

—大会プログラム—

3月28日（土）

開会式 13:00-13:10

開会挨拶 大会実行委員長 佐藤宏介

研究発表1 13:10-13:30

考古学における異種情報源の集約利用システムの実現
林 亜矢子（京都工芸繊維大学）、宝珍輝尚（同）、野宮浩揮（同）

研究発表2 13:30-13:50

シリアルからパラレルへ：次世代型発掘調査
岡安光彦（株式会社四門 文化財事業部）

研究発表3 13:50-14:10

土に目をむけた持続可能な土器の修復と復原
岩月真由子（岩月文化財保存修復研究所）、藤沼昌泰（桶川市教育委員会）、横山 真（株式会社ラング）、赤塚次郎（ニワ里ねっと）、西村誠治（ナカシャクリエイテブ株式会社）、岡安光彦（株式会社四門）

研究発表4 14:20-14:40

“周辺域”・“境界域”におけるエスニック現象に関する試論
平川ひろみ（鹿児島国際大学）、中園 聡（同）

研究発表5 14:40-15:00

航空レーザー測量地図による前方後円墳の築造方法に関する研究
西村 淳（函館大学）

研究発表6 15:00-15:20

遺跡に残る古地震の影響の研究—遺構の変形の磁化研究による検証
酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）、泉 吉紀（同）、木村克之（同）、伊藤 孝（伊藤地質コンサルティング）、鹿島昌也（富山市教育委員会埋蔵文化財センター）

研究発表7 15:20-15:40

磁気物性による富山県内遺跡出土黒曜石の原産地推定
菅頭明日香（富山大学大学院理工学研究部）、酒井英男（同）、麻柄一志（魚津埋没林博物館）

特別講演 15:50-16:50

エジプト考古学における3次元測量計画とその利用について
安室喜弘 先生（関西大学 環境都市工学部都市システム工学科）

ポスターセッション解説 16:50-17:20 ※タイトル別記。

懇親会 18:00-

3月29日（日）

研究発表8 10:00-10:20

同一製作者同定の観点による弥生土器の検討例とその意義
中園 聡（鹿児島国際大学）、平川ひろみ（同大学院）、太郎良真妃（同）、白井菜実（同）、若松花帆（同）

研究発表9 10:20-10:40

考古遺物における三次元計測の実践—各手法の比較と検討—
太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表10 10:40-11:00

パコパンパ遺跡出土土器の3Dデータベース作成
中川 渚（総合研究大学院大学）、関 雄二（国立民族学博物館）、ダニエル・モラーレス（ペルー・サン・マルコス大学）、フアン・パブロ・ビジャヌエバ（同）、マウロ・オルドーニェス（同）、ディアナ・アレマン（同）

研究発表11 11:00-11:20

石材の自動マッチングにおける法線ヒストグラムを用いた矢穴検出法
森多花梨（大阪大学基礎工学研究科）、池田 聖（同）、佐藤宏介（同）

研究発表12 11:20-11:40

過去の矢穴痕から現代石工が考えた道具と動作—実験・専門知識・身体技法—
川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）、平川ひろみ（鹿児島国際大学）

研究発表13 11:40-12:00

江戸城石丁場遺跡の総合的研究（2）—石曳道を探る—
三瓶裕司（公益財団法人かながわ考古学財団）

ポスターセッション解説 13:00-13:40 ※タイトル別記。

研究発表14 13:40-14:00

日本出土の中世中国系瓦の多角的検討—その意義と詳細観察—
下小牧 潤（鹿児島国際大学）、中園 聡（同）

研究発表15 14:00-14:20

南九州における中世瓦質土器の蛍光X線分析
黒木梨絵（（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財

調査センター)

研究発表 16 14:20-14:40

K-Rb、Ca-Sr 相関図の活用

三辻利一 (鹿児島国際大学客員教授)、平川ひろみ (同大学院)、太郎良真妃 (同)、楊帆 (同)、中園聡 (鹿児島国際大学)、若松花帆 (同)

研究発表 17 14:40-15:00

三角縁神獣鏡・短甲の分布図から畿内と地方の関係を読み取る試み

杉本厚典 (大阪歴史博物館)

閉会式 15:00-15:10

閉会挨拶 日本情報考古学会会長 植木 武

※ポスターセッション

研究発表 18

離島における持続可能な博物館活動の展開へ向けて—鹿児島県三島村と香川県小豆島町におけるアンケート調査から—

川宿田好見 (同志社大学文化遺産情報科学研究センター)、平川ひろみ (鹿児島国際大学)、太郎良真妃 (同大学院)、白井菜実 (同)

研究発表 19

香川県小豆島町における昭和初期の石工道具の記録
川宿田好見 (同志社大学文化遺産情報科学研究センター)

研究発表 20

土器の三次元計測：迅速な形状記録と歪みの評価のために
黒木梨絵 ((公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター)、太郎良真妃 (鹿児島国際大学大学院)

研究発表 21

遺跡調査における簡便な三次元記録の実践—主として SfM ソフトの例—

太郎良真妃 (鹿児島国際大学大学院)、平川ひろみ (同)、白井菜実 (同)、若松花帆 (鹿児島国際大学)、中園聡 (同)

研究発表 22

土器製作中の様々なアクシデントへの対処からみた製作者の技 (第1報)

中園聡 (鹿児島国際大学)、平川ひろみ (同)

研究発表 23

土器製作中の様々なアクシデントへの対処からみた製作者の技 (第2報)

平川ひろみ (鹿児島国際大学)、中園聡 (同)

研究発表 24

弥生時代北部九州における甕棺墓の墓地内空間の利用
新屋敷久美子 ((公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター)

2014 年度第 2 回理事会議事録

日時：2015 年 3 月 28 日 (土) 10:00 ~ 12:00

場所：大阪大学豊中キャンパス 基礎工学国際棟 2 階 会議室

出席者：及川昭文 (議長)、佐藤宏介、岡安光彦、川宿田好見、千原國宏、中園聡、西村淳、宝珍輝尚、三瓶裕司、三辻利一 (理事)、横見博之 (監事)

1. 報告

1. 学会誌編集委員会報告

印刷・出版方式を新たにした学会誌『情報考古学』第 20 巻 1・2 合併号を刊行、1 月に配布した。

2. その他

会員資格等に関して組織・会則委員会で検討する。

2. 審議事項

1. 2014 年度予算の支出状況について

事務局より中間報告があり、承認された。

2. 2015 年度予算案の概略について

事務局より経費削減の旨と、メール便廃止等に係る予算増など諸点の提案・説明があり了解された。

3. 学会設立記念事業について

設立 20 周年の記念事業として、パンフレットないし小冊子を作成することになった。

4. プログラム委員会の役割について

大会内容の企画は実行委員会を基本とし委員会は確認・支援する。査読方式についても議論された。

5. 次回大会について

9 月末ごろに実施することで調整中。

6. その他

a) 学会誌の電子的公開について審議され、完全アクセスフリーとすることに決定した。できるだけ速やかにタイミングをみて実施する。非会員の投稿料・掲載料については検討する。

b) 森本理事辞任の申し出について承認された。学会誌編集委員に欠員が出るが、後任の人選を行う。

c) 2016 年夏に京都で開催される世界考古学会議 WAC-8 への取り組みを検討することになった。

d) 他学会でも話題となっているように、考古学界や取り巻く状況が変化しつつあることを受けて、考古学と自然科学の関係について考える必要があるとの問題提起があり、話し合われた。

第35回大会の開催について

日本情報考古学会第35回大会を下記のとおり開催いたします。ふるってご参加ください。

開催日 10月3日(土)・4日(日)の2日間

1日目 10月3日(土) 13:00～

2日目 10月4日(日) 10:00～

場所 共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス
本館5階510

(東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 下記参照)

<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/access/index.html>

最寄駅:東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・

都営地下鉄新宿線「神保町」駅

または、東京メトロ東西線「竹橋」駅

特別講演1 小田静夫 先生

「日本最古の旧石器文化について」

特別講演2 小野 昭 先生

「黒曜石から見る石材の流通問題:

歴史的経緯と現状」

一般講演 24件(ポスター6件)

懇親会 1日目 18:00- 本館4階学生食堂(4000円)

参加費(『講演論文集』込) 会員 2000円、非
会員 3500円

※プログラムは別途配布します。学会HPにも掲載。

※詳しくは、学会HPより各自ご確認ください。最新
の情報を掲載します。

※ご宿泊の予約等は各自でお願いいたします。

『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布

『日本情報考古学会講演論文集』Vol.14(通巻34号)が、2015年3月に発行されました。第34回大会の発表に関連する論文等が収録・掲載されています(本文96頁)。頒価2000円+送料。

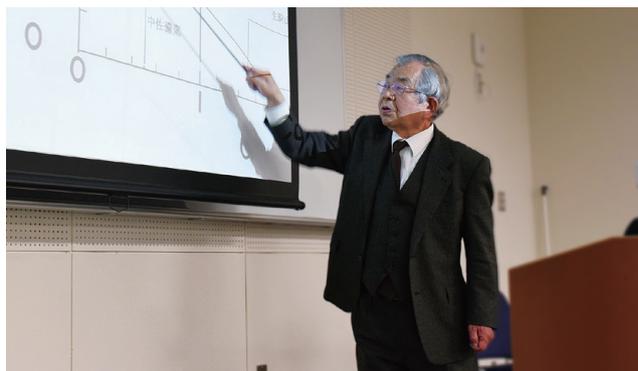
ぜひ事務局まで、お申込みください。その際、メール等にお届け先と冊数を明記ください。

なお、第35回大会当日、次号を発行します。



三辻利一理事の叙勲について

学会理事を多年にわたり努めてこられた三辻利一氏(奈良教育大学名誉教授、現 鹿児島国際大学客員教授)が、平成27年春の叙勲で「瑞宝中綬章」を受章されました。三辻氏のご専門は考古科学・分析化学です。長年教育研究に従事され、土器の産地推定法について方法論の構築や実践に大きな成果を上げてこられました。お元気で研究を続けておられ、本学会誌や大会でも精力的に成果を発表されています。



第34回大会(大阪大学)にて。

お願い

- ◆年会費の納入にご協力いただき、ありがとうございます。会費は前納制です。今年度会費を未納の方は、お早目のお支払いをお願いいたします。
- ◆住所、所属、役職、送付・連絡先等に変更がある会員は、直ちに事務局までご連絡ください。
- ◆入会ご希望の方は申込書を事務局宛で送付ください。賛助会員は「賛助会員入会の手引き」をご覧ください。様式や手引きは学会ホームページにあります。

本学会は下記の賛助会員よりご支援いただいています。

株式会社 四門 株式会社 CUBIC
国際文化財株式会社 ほか

日本情報考古学会会報 No.36

2015年8月31日

発行 日本情報考古学会事務局

〒891-0197 鹿児島市坂之上8丁目34-1
鹿児島国際大学中園聡研究室内

E-mail: archaeoinfoiuk@gmail.com

<http://www.archaeo-info.org/>